

製品名: Atg4C ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab07295

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	ATG4C
別名	ATG4C; APG4C; AUTL1; AUTL3; Cysteine protease ATG4C; AUT-like 3 cysteine endopeptidase; Autophagin-3; Autophagy-related cysteine endopeptidase 3; Autophagy-related protein 4 homolog C
遺伝子 ID	84938.0
SwissProt ID	Q96DT6
免疫原	抗血清はヒト ATG4C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

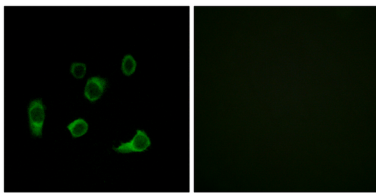
背景

オートファジーは、内因性タンパク質や損傷した細胞小器官を細胞内で破壊するプロセスです。オートファジーは、分化、変態、非アポトーシス性細胞死、そして老化における細胞の恒常性維持と細胞リモデリングに不可欠であると仮定されています。一部の悪性腫瘍ではオートファジーレベルの低下が報告されており、がんに関連する制御不能な細胞増殖の制御におけるオートファジーの役割が示唆されています。この遺伝子は、オートファジタンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、システインプロテアーゼの C-54 ファミリーのメンバーとしても指定されています。同じタンパク質をコードする代替転写スプライスバリエーションも特徴付けられています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、酵素制御: N-エチルマレイミドによって阻害される。、機能: オートファジーに必要なシステインプロテアーゼ。MAP1LC3、GABARAPL2、または GABARAP の C 末端部分を切断し、フォーム I を遊離させる。フォーム I の一部はその後、より小さなフォーム (フォーム II) に変換される。C 末端グリシンが露出したフォーム II は、ホスファチジルエタノールアミン (PE) 結合型と考えられており、オートファゴソームに結合する能力を有する。、類似性: ペプチダーゼ C54 ファミリーに属する。、組織特異性: 骨格筋、心臓、肝臓、精巣で高発現する。、

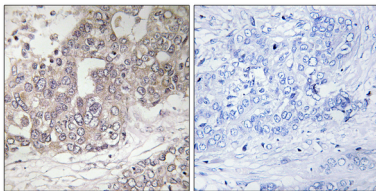
研究分野

オートファジーの調節;

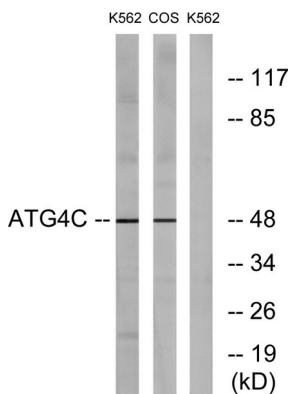
画像データ



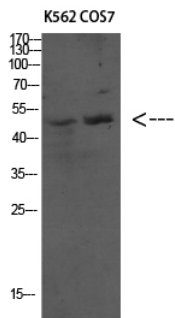
ATG4C 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



ATG4C 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



K562 細胞および COS7 細胞のライゼートを ATG4C 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1:1000 に希釈した抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。